

# Pre-ritual についての覚え書き

2020/09/20

E.T.M.

2020 年の秋分に寄せて。

通常、魔術用の意識に転換するにはカバラ十字を用いることが多いと思うが、私はこれでは中々意識の切り替えができなかった。できても意識の切り替えが浅かった。

そこでカバラ十字を行う為の準備運動。儀式の前の儀式として Pre-ritual、通称プレと呼ぶルーティンを実践することにした。

ここでプレの標準形の一つを提示する。プレはその時の心情などによって若干変化していく。だから標準形の一つという言い方をした。

**東面し、私に重なる光体を一步前に踏み出させる**

**光体は窓から外に出る**

**外に出た光体は家の屋根に登る**

**屋根の上に登った光体は空に駆け上がる**

**家や近所を見下ろす**

**そして雲を超え成層圏を越え宇宙に出る**

**宇宙にたどり着いた私は大きくなる**

**地球を踏み台にして太陽系を眺める**

**そしてさらに大きくなり大きくなり**

**銀河と銀河群と大きくなる**

**最終的に宇宙そのものと同じ大きさになった私は、**

**ケテルからの光を感じる**

**さあ、カバラ十字を行おう**

と言った具合だ。

こうして自分が魔術側の意識に切り替わったことを感じ、魔術を実行する。

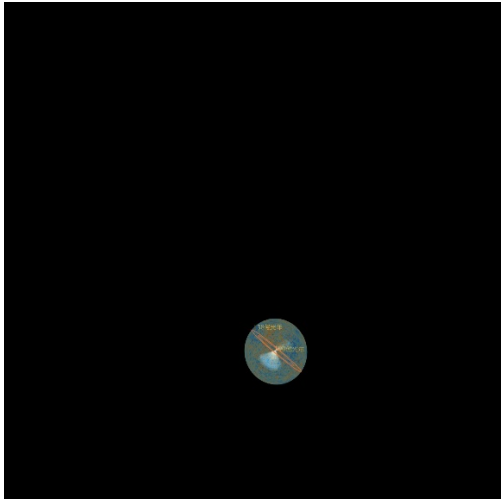
もし、これが上手く行かないときにはもう一度することもあるし、儀式自体を取りやめることもある。

このプレのポイントは、光体を体から出すところに有ると思う。そうして日常では見えないはずの光景を光体を通じて見ていくことで、魔術側の意識に切り替える事が出来る。

ちなみにこの光景は、幾つかのソフトと VR の力を借りて見ている。

- ・ Google Earth VR

- ・ プラネタリウム用ソフト Mitaka の VR モード ( <https://4d2u.nao.ac.jp/html/program/mitaka/> )
- ・ NASA などのフォトライブラリ

|                                                                                    |                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |
| Mitaka から見た太陽系                                                                     | Mitaka から見た全宇宙                                                                      |
|  |  |
| Google Earth VR から見た海外の景色                                                          | Google Earth VR から見た秋葉原                                                             |

と言ったソフトを使っている。

VR は先日まで HTC VIVE を使っていたが、現在は Oculus Rift S を使用している。

これらの機器とソフトを使って、言わばプレで使う景色を「予習」しているのだ。だから、臨場感溢れる映像でプレを行うことが出来る。

もちろん、これらのソフトと環境を揃えるには結構お金も掛かる。万人向けの方法ではないと思うが、工夫すれば似たような映像を手に入れられるのではないだろうか。Google Earth も Mitaka も通常版でも無料のソフトだし、様々な研究機関も無料でフォトライブラリを無料で公開している。臨場感はともかく、資料としては何とかなるはずだ。

プレを行うようになってから視覚化の精度が明確に上がった。儀式事態に対する没入度も高くなり、途中で醒める事も減った。良い事尽くめである。

皆さんもプレを試して頂きたい。

いや、ひょっとしたらこういう手法はどこかで公開されていて、実は標準的な手法で「何言ってるんだこいつ」となるかも知れないが……。

ともかく、ここまで読んでくれて有難う。ほんの覚え書きなので短いが、今後もこの様な文書を書いていきたい物である。